

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	岡山県
再委託先	早島町

## 1 事業推進の体制

実践中心校	早島町立早島小学校
協力校	早島町立早島幼稚園 早島町立早島中学校
関係機関	—

## 2 具体的な取組等について

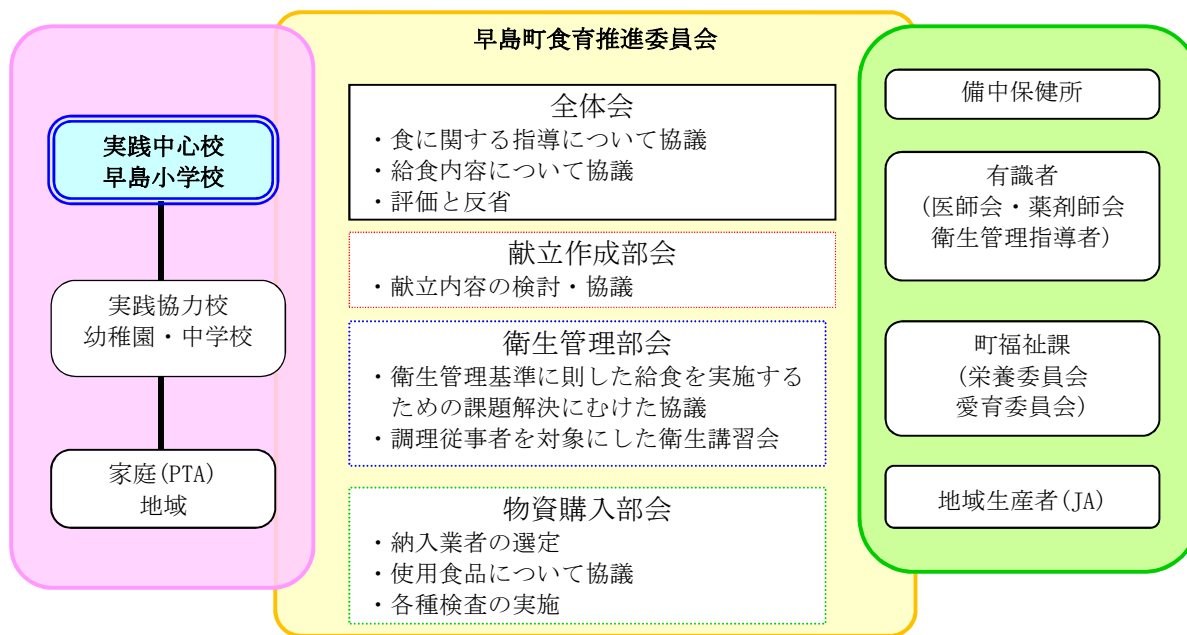
テーマ1	幼・小・中の連携による食に関する指導の実践と学校給食の充実に向けた取組
評価指標	食育・給食管理について、学校と家庭・地域との協議体制の構築。
効果	食育推進委員会を発足し、今後も継続できる体制も整備することができた。

### (取組状況)

#### ○ 食育推進体制の整備 (図1)

目的 児童生徒の健やかな成長に必要な食に関する知識を習得させたり、食料生産等への関心や理解を深めたりすることができる「生きた教材」となる給食の実施とこれらを活用した食に関する指導方法等について協議するため。

内容 食育推進全体会及び献立作成、衛生管理、物資購入の三部会を開催して、子どもたちの課題について協議したり、給食運営について意見交換したりすることで、先進的で他地域に誇れる食育の実践や学校給食の実施につなげる。



(図1) 食育推進委員会と体制

テーマ2	健やかな心と体、人間関係を育む食に関する指導の充実
評価指標	食に関する全体計画の改定及び年間指導計画の作成と計画に沿った授業実践。
効果	研究主任と保健主事を中心に教育課程に沿った年間指導計画を作成することができた。実態調査結果から、第5学年の児童は、嗜好から栄養バランスに関心が移ったことがわかった。これは、教科や総合的な学習、給食時間に担当が食を意識して指導を行う等の積み重ねによるものと考えられる。また、健康教育担当者と連携して指導を行うことで、児童がもつ知識や既に学習した内容を深めることができた。

**(取組状況)**

- 食に関する指導の全体計画と年間指導計画の改定
  - 目的 既存の教育課程を整理し、全教職員が食育の観点を踏まえた指導ができることや継続的に実践できる計画にするため。
  - 内容 食育推進事業計画により研究会を設定し、第5学年4学級同時に授業を公開し、同時に、学校給食について関心と理解を促す試食会も実施した。(図2)
  - この会は、幼稚園・中学校及び近隣校の教職員、地域関係者等が参加して学校における食育活動について情報を発信するとともに、食育について意見を交換する機会とした。



(図2) 公開授業風景

<b>テーマ3</b>	ICTを活用した家庭・地域への啓発及び連携した食に関する指導の取組
<b>評価指標</b>	学校の食育についての資料配布とホームページによる定期的な情報発信。
<b>効果</b>	HP等による定期的な情報発信は、閲覧者が限定されていることが予想されることから、実態調査結果でわかった興味や関心のある項目を取り入れた内容を検討する必要がある。栄養委員やPTAと作成したレシピ集や教材は、食育に活用できるものになった。

**(取組状況)**

- ホームページ等の作成 ～家庭・地域への情報発信～
  - 目的 幼小中が連携して行う食育や食育推進委員会の取り組みを伝える配布資料を作成するとともに、家庭や地域の方が食育について理解と関心を深める手立てとしてホームページ等での情報発信を行う。
  - 内容 ホームページでは、バナーを作成してブログを配信し、配布資料から献立表や食育だより等閲覧できるようにした。また、更新状況がわかるブログも掲載している。
  - 家庭との連携を図るため、学級懇談では担任から学校での食育について話をしたり、校内掲示物等で食に関する情報を発信したりすることで、健康への意識向上を図る取り組みを実施した。
- レシピ集の作成 ～地域と連携した取組～
  - 目的 小学校第6学年を対象に学校で学習した内容を家庭で実践するための教材として“レシピ集”を作成した。(図3)
  - 内容 料理は、主食・主菜・副菜・しる物・その他の5つに分類して掲載し、栄養バランスを容易に確認できるランチョンマットを作成して同時に配布することにした。(図4)
  - レシピ集は、栄養委員と料理の試作や写真撮影を行い、試食をしながら内容を検討して、多くの人の意見を取り入れた内容にした。



(図3) レシピ集 (図4) ランチョンマット

- 親子料理教室の開催 ～PTAと連携した取組～
  - 目的 調理の楽しさを知り、栄養バランスのよい食事内容を学ぶため。
  - 内容 子どもたちが苦手な豆や野菜を食べることができる、給食でも好評な献立を取り入れた。感想から、参加した児童は、家庭での実践意欲を高め、保護者は、子どもと触れ合う時間をもつことで満足感を得るとともに、子どもとの料理作りの大切さを感じたり、手伝いの在り方を見直そうとしたりする意欲がうかがえた。このことから、料理教室は、食に関する

る関心や意欲を高めるだけでなく、日常生活での実践化に繋がる可能性が高くなることが示唆された。

○ アレルギー講習会 ～行政・医療機関と連携した取組～

目的 食物アレルギーの正しい理解とアナフィラキシー発症時の適切な対応方法を習得するため。

内容 講師に、独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター小児科水内秀次先生を招いて、アレルギーに関する基本知識の習得とエピペンの使用体験を行った。（図5）

対象 食育推進委員、町内の小学校と中学校、幼稚園、保育園の教職員とした。



（図5）アレルギー講習会

テーマ1～3に共通する取組

評価指標	児童生徒、保護者の生活と食習慣についての実態把握と事業効果の検証。
効果	実態調査結果から、食生活と生活習慣の課題が明らかになり、食と健康についての知識や興味、関心の傾向がわかった。また、保護者が学校や給食に望むことが明確になり、給食運営や情報提供の基礎データを得ることができた。

（取組状況）

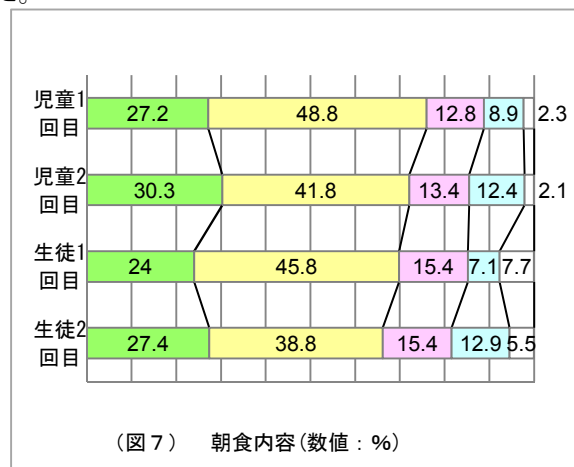
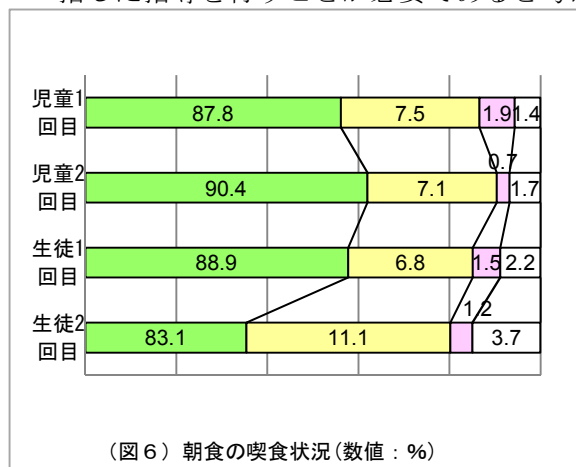
○ 児童生徒、保護者の食に関する実態調査

目的 児童生徒及び保護者の生活習慣、食習慣に関する基本データを収集するため。

対象 児童生徒 1057名（児童：1回目 732人 2回目 716人 生徒：1回目 325人 2回目 325人）  
保護者 804名（1回目：804人 2回目 795人）

内容 生活習慣（睡眠・余暇・運動・健康状態）、食習慣（朝食・給食・夕食）に関すること。

結果 朝食の喫食状況について、毎日朝食を食べる児童は1回目 87.8%から2回目 90.4%に増加した。（図6）朝食内容について、2回目は、主食偏重型が減少し、軽食型、定食型が増加した。（図7）食事内容の改善は家庭の協力が不可欠であることから、今後は、参観日での授業や懇談時に食事内容の重要性を伝えるとともに、児童生徒には、食の自立を目指した指導を行うことが必要であると考えた。

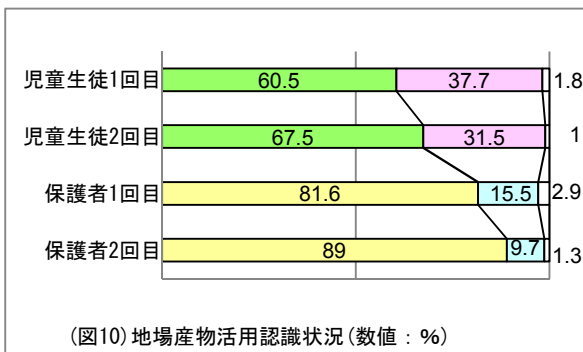
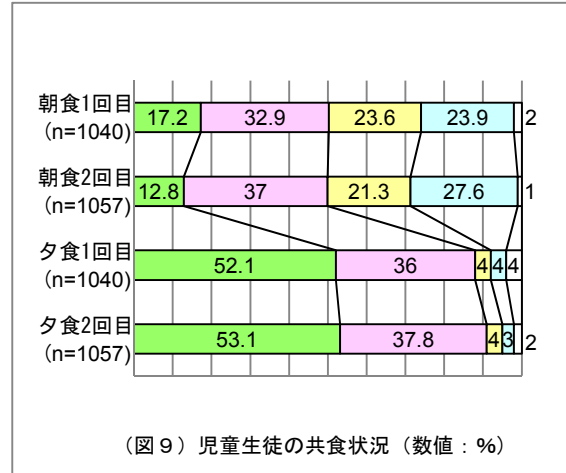
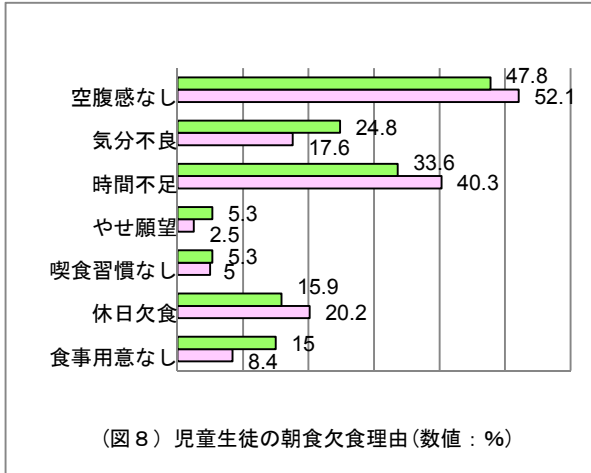


朝食欠食理由は、「空腹感なし」が最も多く、続いて「時間不足」だった。また、2回目は、「空腹感なし」「時間不足」「休日欠食」が増加した。（図8）規則正しい生活習慣の形成は、児童生徒の生涯の健康に関わるため、朝食を食べることをきっかけに生活習慣の改善を促すよう個別に指導することも検討する必要がある。

家族との共食状況は、朝食を「家族全員で食べる」は、1回目は17.2%、2回目は4.4ポイント

ト減少し 12.8% になった。一方、「一人で食べる」は 2 回目で 3.7 ポイント増加し、27.6% になった。

夕食では 50% 以上が「家族全員で食べる」となり、「家族の誰かと食べる」を合わせて約 9 割が大人と夕食を食べていることがわかった。また、夕食では、家族との共食の割合が、2 回目増加した。(図 9)



給食における地場産物の活用認識状況は、2 回目で児童生徒は 67.5% となり 1 回目より 7 ポイント、保護者は 89.0% で 1 回目より 7.4 ポイント増加した。(図 10) しかし、十分に認識しているとは言い難いことから、生産者等と連携して教材を作成したり、情報発信方法を検討したりすることで、認識率を向上したい。

保護者が学校給食に望むことは、「安全な食品の使用」54.3% 「食育の推進」52.4% が多く、「栄養や食品についての知識を身につ

けさせてほしい」43.9% 「基本的な食事マナーを身につけてほしい」33.5% の順になった。また、2 回目は、「安全な食品の使用」とともに「郷土食や伝統食の実施」を望む者が多くなる等、多面的な食育の取組が期待されていると推察した。

○ 先進地視察 (広島県竹原市吉名小学校)

目的 発達段階に応じた食育の指導目標と学習内容の系統表作成と活用等についてを先進地に学ぶため。

対象 食育推進委員、町教育委員会担当者等 (計 20 名参加)

3 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

研究授業を行った第 5 学年の児童は、給食を好きな理由として 1 回目は「おいしい」と回答した者が多かったが、2 回目は「栄養のバランスがよい」と回答した者が 13.4 ポイント増加し、48.4% となった。これは、授業による指導と、日頃から担任等が食を意識して指導を行ってきた結果、給食のよさや食事と健康の関わりについて、児童の意識が変化したものと考えられる。

また、食育は家庭で行うものであるが、保護者が望ましい食生活や生活習慣を実践できていない場合がある。そこで、第 4 学年の保健領域では、専門的な知識を有する栄養教諭や養護教諭が連携して指導を行った。授業の感想から、児童が学習した内容を理解し、自らの生活を見直し、よりよい生活を実践しようとする意欲をもったり、家族に伝えて協力を仰ごうとしたりする様子が確認できたことから、有効な指導であったと考えられる。

4 今後の課題 (今回の事業により新たに見えた課題など)

早島町においては、学校における食育を推進するための体制を維持し、学校給食を充実させるために家庭・地域との連携強化に努める。また、各校園においては、食に関する指導を計画的かつ確実に実施し、指導評価をもとに年間指導計画を見直し、系統的な指導ができるよう研究を継続することが重要である。